

農林水産政策学 第1講

2016年4月13日

有賀健高

本講義の目的

- 日本の農林水産業の生産性を引き上げ、これらの産業を活性化させるための方策を経済学の視点から体系的に学んでいく
 - 市場と政府の役割分担を明確化し、市場と政府がそれぞれの役割を充分果たせるように制度を設計するための方策について学ぶ

本講義の構成

- 第一部（第1講から第6講）
 - － 本講義で使用する経済学の基礎理論や用語について学ぶ
- 第二部（第8講から第15講）
 - － 農林水産業の抱える経済的、制度的問題を把握し、問題是正のための方策を経済学の視点から学ぶ。主に市場の失敗と政府の失敗を取り除くための施策に焦点を置く。

農林水産政策学 第1部、第1講
経済学の基礎1： 経済学とは？

はじめに

- 定義：経済学とはどういう学問かということに関する一致した見解はないが、一般に「希少な資源をどのように活用していくかを考える学問」であるとされている。
- 手法：現実の経済をモデル化したり（理論分析）、そのモデルに実際のデータを当てはめてモデルの正しさを確かめたり（実証分析）する。
- 分類：学問体系的には大きく、マクロ経済学とミクロ経済学に分類されている。

経済

- 「経済」という用語はPolitical Economyの訳語として福沢諭吉によって導入され、「経世済民」(世を經(おさ)め、民を濟(すく)う)を略した和製漢語として広まった。
 - マクロ経済学の視点
- 英語の“economy”は古典ギリシャ語のοικονομία(家政術(家庭のやりくりにおける財の扱い方))に由来。οικος(oikos)は家を意味し、νομος(nomos)は秩序・法、慣習を意味する。
 - ミクロ経済学の視点

経済活動

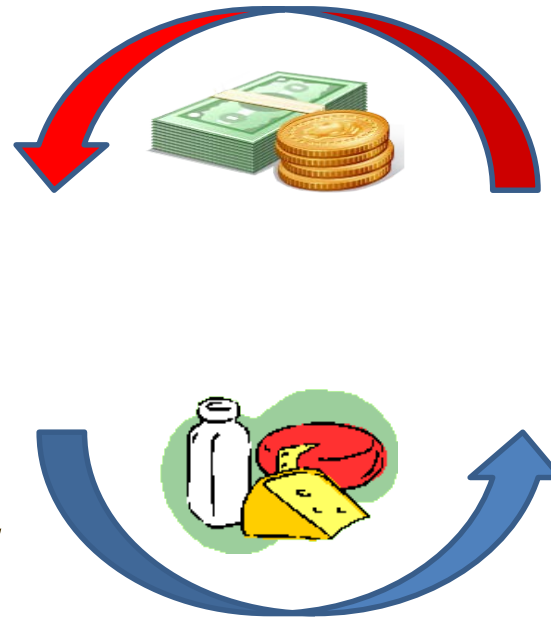
- 経済活動とはモノ(暮らしの中で衣食住の欲求を満足させる財やサービス(用役))を「お金でやりとり」する活動(取引)である。
 - － 財:衣食住に関わる目に見える有形の商品
 - － サービス:人が手助けしてくれる行為で目には見えない無形の商品
 - － 商品:お金を出せば購入できるモノ
- 経済学では一般にお金のやりとりのない活動は経済活動とはみなさない。

経済活動のイメージ図

生産者(企業)



消費者(家計)



生産した物やサービスの販売

欲しい物を購入

マクロ経済学

- 個別の経済活動を集計し、全体的な視点から経済全体(国や地域など)を扱う経済学の分野
- 主に扱われている研究対象: 国民所得、経済成長率、失業率、物価水準の動き(インフレ、デフレ)、為替レート、投資・貿易収支
- 主な目的: 経済状態に問題がないかを判断し、経済政策の必要性を見極めること。
- 重要な用語: 名目と実質、ストックとフロー

日本の名目GDPの推移

10億円

550,000

500,000

450,000

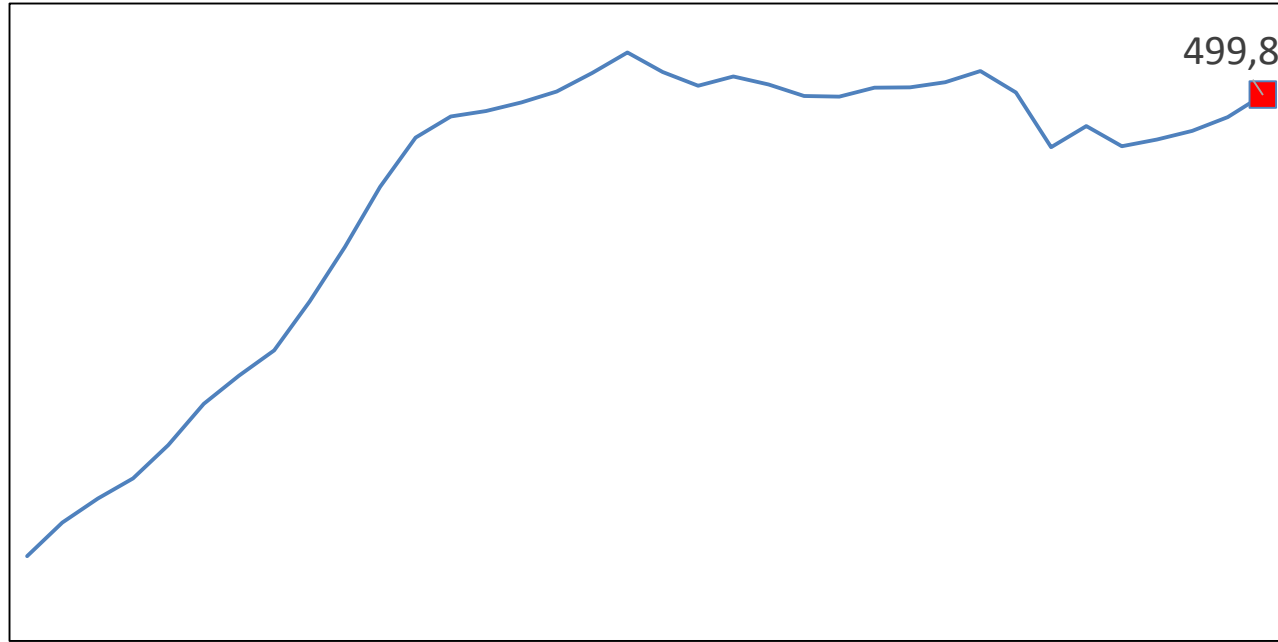
400,000

350,000

300,000

250,000

200,000



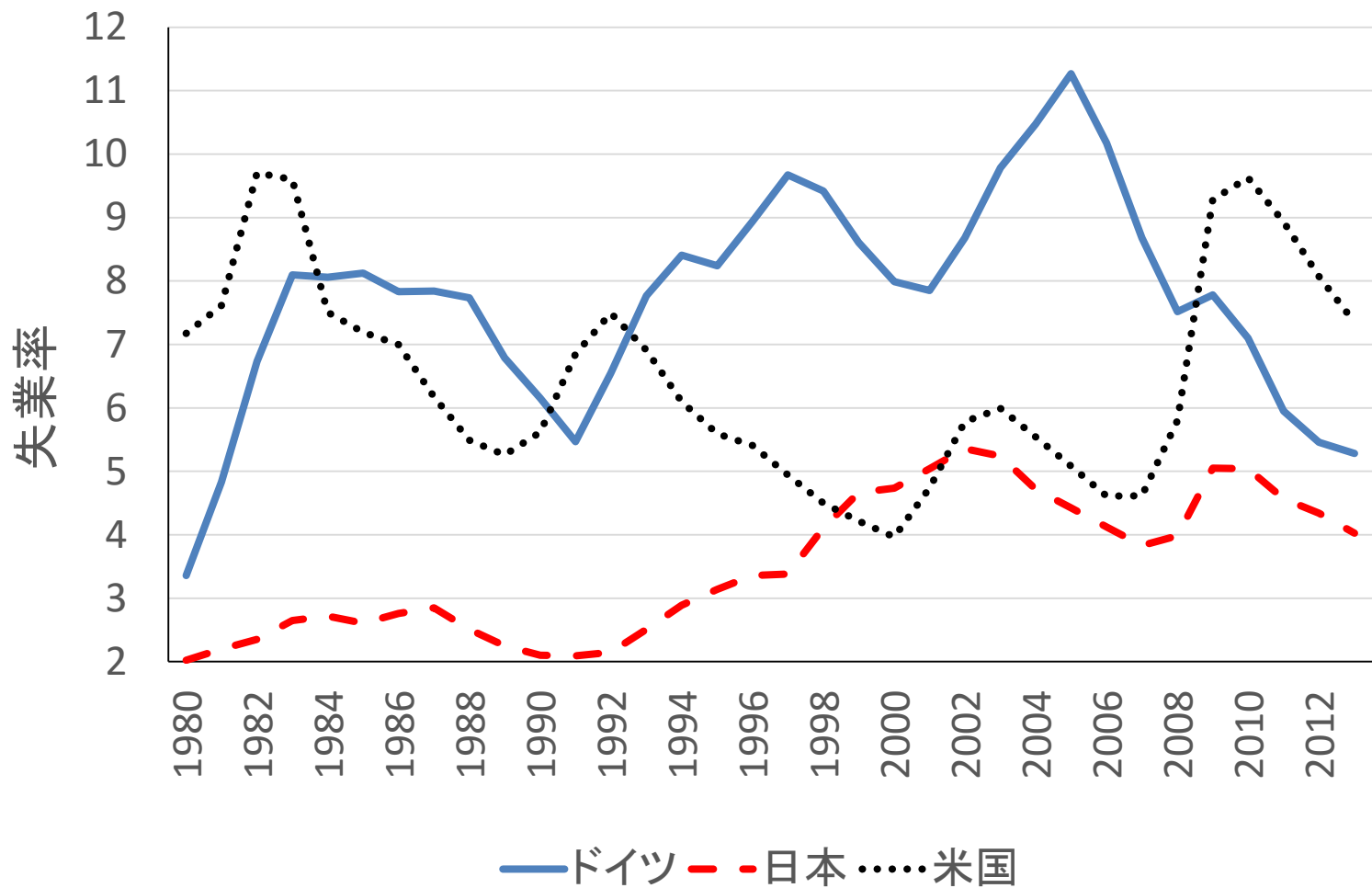
499,822

1980 1982 1984 1986 1988 1990 1992 1994 1996 1998 2000 2002 2004 2006 2008 2010 2012 2014

年度



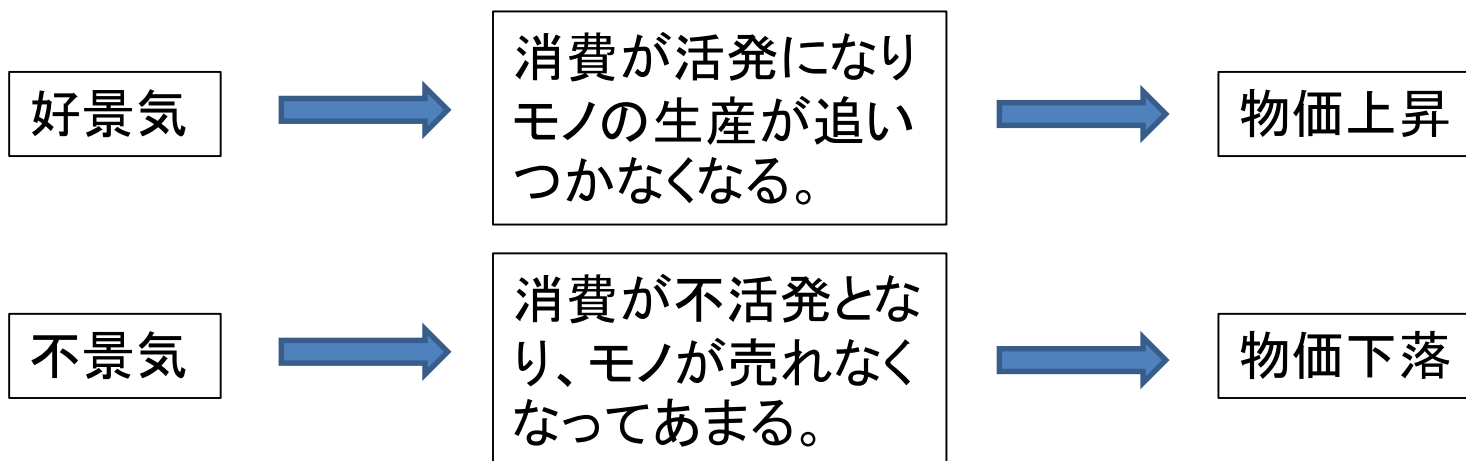
日米独の失業率の推移



マクロ経済学：物価と景気

- 物価とは？

- 様々なモノの取引価格を合計して平均したもの。
- 現実には何万ものあるモノの生産量と情報が得られないため円単位では計算できないため物価指数という指標で表されることが多い



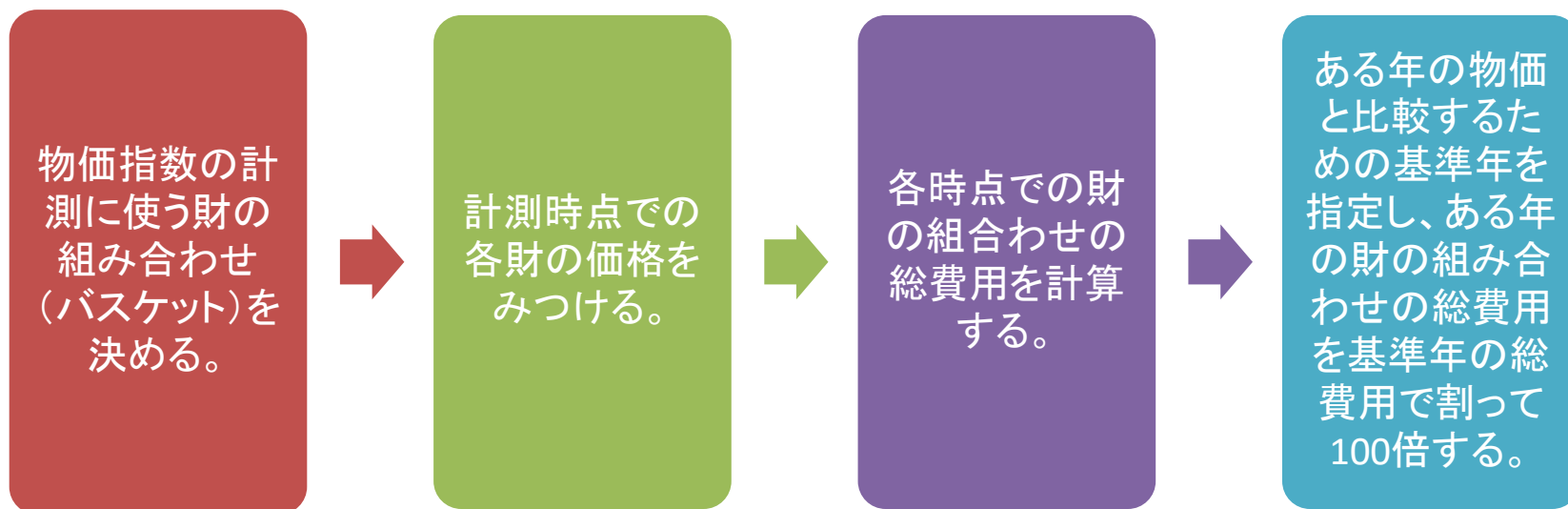
主な物価指数

- 消費者物価指数 (Consumer price index: CPI)
 - 消費者の購入段階での商品やサービスの価格に焦点を当てた物価指数
- 生産者物価指数 (Producer price index: PPI)
 - 主にアメリカなどで使われており、国内の企業間で取引される商品の価格に焦点を当てた物価指数
- 企業物価指数 (Corporate goods price index: CGPI)
 - 生産者及び卸売段階の商品の企業取引価格に焦点を当てた物価指数
 - 国内企業物価指数、輸入物価指数、輸出物価指数からなる。
 - 1949年以降、卸売物価指数 (Wholesale price index: WPI) として親しまれていたが、2003年1月以降、企業物価指数と呼ばれるようになっている。

参考資料: 日銀ホームページ

物価指数はどのように計算されるか

- 消費者物価指数の例



インフレーション

- 財やサービスの価格が総じて上昇傾向にある状況をいう。
- 消費者物価指数(CPI)や生産者物価指数(PPI)で計測
 - 日本ではPPIではなく企業物価指数(CGPI)を公表
 - PPIでは輸送コストなどの中間コストを含まない(出荷時点の価格)のに対しCGPIでは輸送費用などの物流コストも含めて産出

補足：名目金利と実質金利

- 名目金利
 - 物価の変動を考慮にいない表面上の金利
- 実質金利
 - 名目金利から物価変動の影響を除いた金利

フィッシャー方程式

$$\text{実質金利} = \text{名目金利} - \text{期待インフレ率} \\ \text{(物価上昇率)}$$

インフレの利点と欠点

- 利点

- 名目上の売上増加につながるので財やサービスの提供者には有利。
- 実質金利の低下になるので債務者にとって有利。
- お金の価値が下がるので名目上の借金が減る。

- 欠点

- お金の価値が目減りによって商品が買いにくくなる。
- 年金生活者など給与所得のない人の資産が目減りする。

デフレーション

- 財やサービスの価格が総じて下降傾向にある状況をいう。
- デフレの利点と欠点
 - 利点
 - 実質利子率が上がるため国債などの債権所有者には有利
 - 物価の下落により商品が買いやすくなる。
 - 欠点
 - 債務者の実質的な債務が増大する。
 - 実質金利の上昇 → お金が借りづらくなり投資活動低下
 - 財やサービスの生産者の売上が下落するため賃金の下落や失業が増大することにつながりかねない。

マクロ経済学：ストックとフロー

- ストック：ある時点にどれくらいの財貨が存在するか。

例 資産、資本（過去の生産活動などから生み出した生産手段として保有している財やサービス）

- フロー：ある一定期間にどれくらいの財貨が流れたか。

例 国内総生産（GDP）、国民所得、投資


マクロ経済学：名目GDPと実質GDP

- 名目では物価上昇などを含めない額面通りでの値を見る。
 - 名目GDPを計算する場合は、評価時点での貨幣単位を使って計算する。
 - 名目GDP = 今年の財の価格 × 今年の財の数量
- 実質では名目の値から物価変動の影響を取り除いた値を見る。
 - 実質GDPを計算する場合は、基準となる時点での貨幣単位を使って計算する。
 - 実質GDP = 基準年の財の価格 × 今年の財の数量

ミクロ経済学

- 家計(消費者)、企業・産業(生産者)といった経済主体(経済活動の中で意志決定をする人や組織)の最小単位の経済的行動を分析する経済学
の分野
- 主に扱われている研究対象: 市場の働き(市場で何が起こるのかを分析)、価格分析(個々の財の価格がどのように決まるのか)
- 主な目的: 最適な資源配分をもたらす取引の仕組みを探る。
- 重要な用語: 市場、効率性

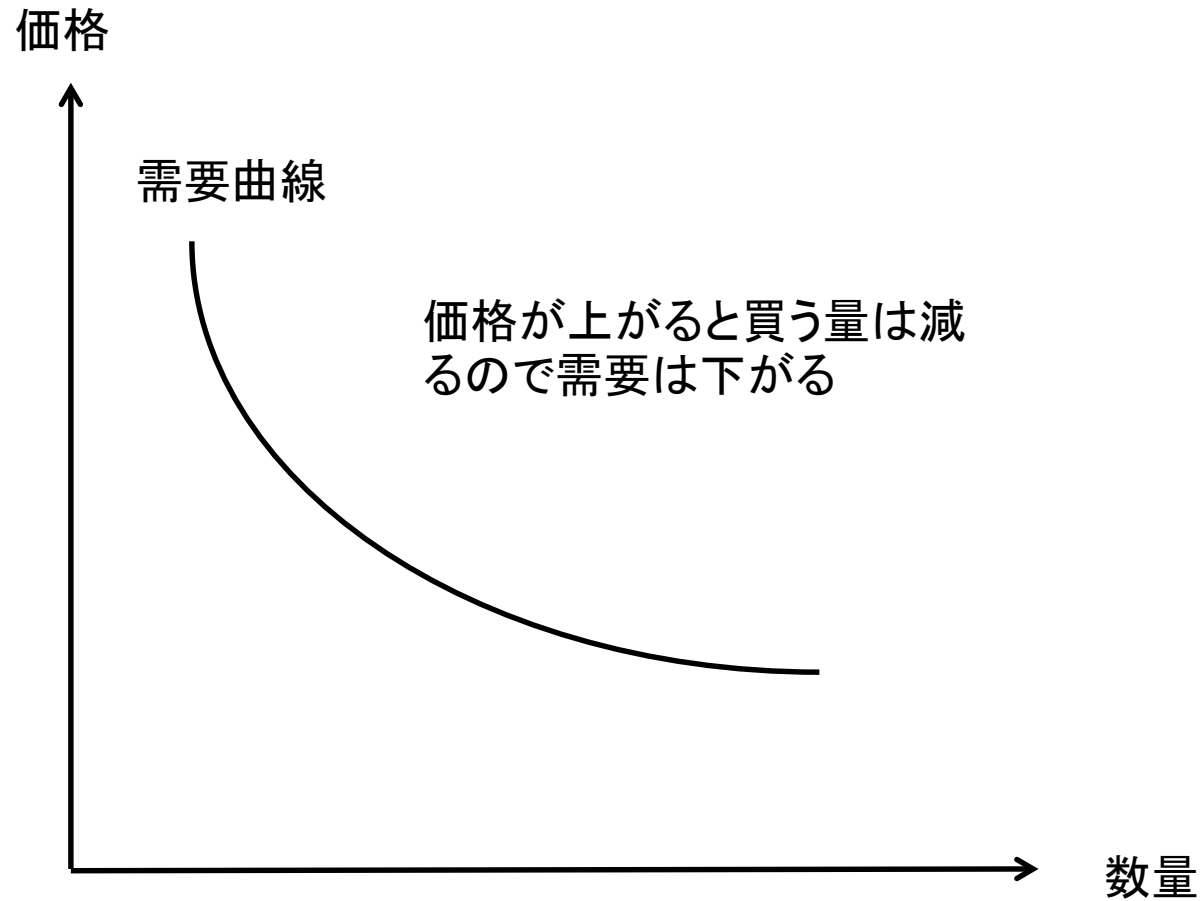
ミクロ経済学:資源配分問題

- 資源:人間の生活や産業などの諸活動において利用可能なモノやサービス
 - 経済資源(生産要素あるいは生産資源とも呼ぶ): 資本、労働、天然資源、土地など
 - 資源配分問題で扱う主な問題
 - 誰がどれだけ生産するのか?
 - どのように生産するのか?
 - 生産物をどのように配分するのか?
-  生産要素をどのように生産や消費に結びつけていくか

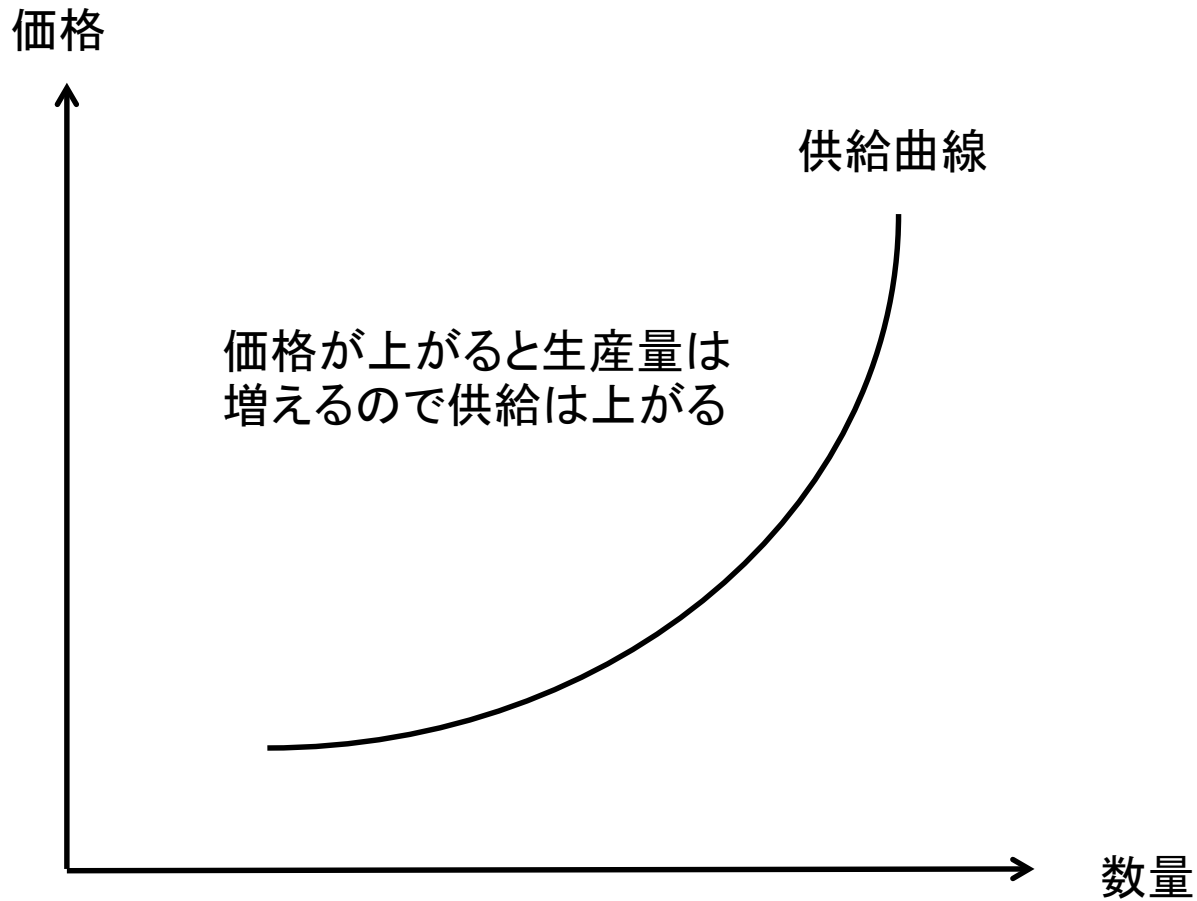
ミクロ経済学：市場とは？

- 「財やサービスの売り手と買い手が、売買や交換ができる制度的な関係全体」
- 買い手と売り手が価格や取引料について交渉できる関係にあること。
- 市場経済(Market Economy)とはこの市場を媒介とした経済システムを指す。
 - 特徴：私有財産制度、利益追求の自由
 - 対立概念→計画経済(planned economy)

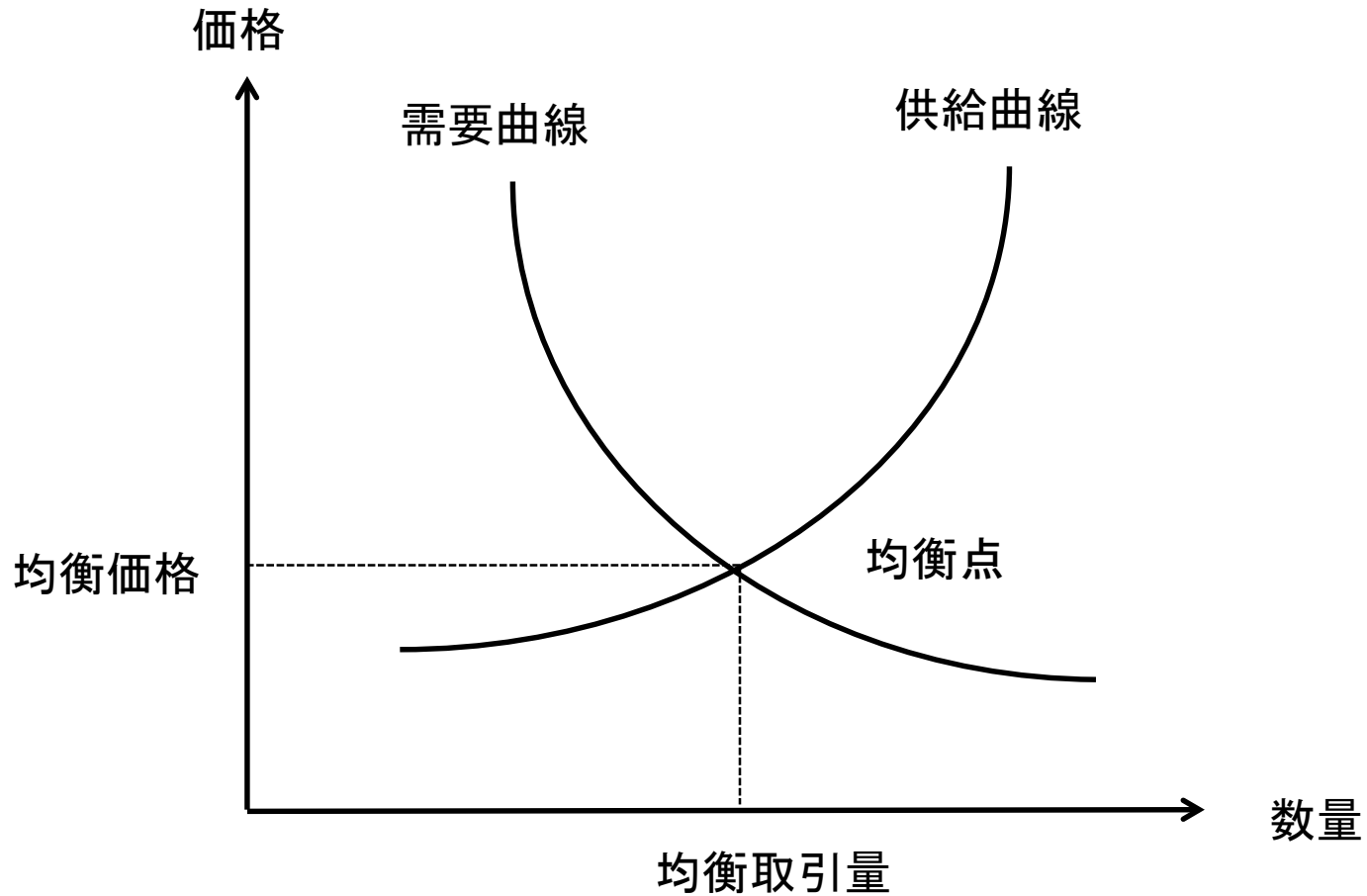
ミクロ経済学：需要（消費側）



ミクロ経済学：供給（生産者側）



ミクロ経済学：市場均衡



ミクロ経済学：効率性

- 資源・財の配分は無駄のないこと
- 経済学では「経済にいる他の誰かの生活水準を引き下げることなく、ある人の生活水準を引き上げることができない状況」を言う。
- 与えられた資源と技術のもとで、経済の中のある人の生活水準を引き上げるためには、必ず誰かの生活水準を引き下げなければならないような状況